

# 仏都会津

(柳津町)など、多くの寺院を開き、会津地方の民衆教化につとめた。その後、慧日寺は隆盛を極め、

会津仏教文化に黄金時代をもたらすこととなる。それが脈々と受け継がれて、会津の精神・文化を創り上げてきたのである。徳一が開いたといわれるこれらの寺院は、現在も「会津五薬師」や「会津ころり三観音」を含む「会津六詣」で、「会津三十三観音」などのひとつとして、巡礼が行われているのである。

今も会津の人々に受け継がれている祈りの心

高校生のとき、修学旅行で訪れた京都・奈良・清水寺や法隆寺など、たくさんのお寺を見た記憶がよみがえる。

実は会津も、奈良・京都・鎌倉・平泉と並んで「五大仏都」のひとつであることを、皆さんはご存知だろうか。

会津仏教文化の礎を築いたのは、磐梯町に慧日寺を開いた奈良の僧・徳一である。一体なぜ彼は

会津の地にやってきたのだろう

は、現在も「会津五薬師」や「会津ころり三観音」を含む「会津六詣」で、「会津三十三観音」などのひとつとして、巡礼が行われているのである。

魅力あふれる仏都会津。幕末関連の史跡や名所を巡るのもいい

「会津三十三観音」は江戸時代、6年、磐梯山が噴火。周辺に大きな被害がでたことを聞いた徳一は、人々を救済するためにやつてきたという。

会津にやってきた徳一は、慧日寺を拠点に鳥追觀音如法寺(西会津町)、勝常寺(湯川村)、圓藏寺

が、会津の人々の心に深く流れ、仏を思う気持ちに想いを馳せ、ゆっくりと会津のお寺を巡つてみてはいかがだろうか。

保科正之が領内に33カ所の靈場を定めたことに始まるとされていいる。背景には、当時流行していたお伊勢参りや西国三十三札所巡りなどがある。正之が、会津領内から出られない人のために選

## 足跡

八重の人生を変えた戊辰戦争の



# 八重の人生を変えた 戊辰戦争の

# 足跡

八重を含む会津の人々が、たくさんのものを失った戊辰戦争。日本に、幕府に、会津に何が起きていたのでしょうか。その根底に迫ります。

## 会津と戊辰戦争

孝明天皇に忠誠を尽くしていたはずの会津藩がいつしか「朝敵」に

会津藩主・松平容保<sup>かたもり</sup>：  
京都守護職を受諾

### 幕

末の世、尊皇攘夷派浪士による暗殺が相次ぎ、不穏な状況に陥っていた京都。それまで京都の治安を守っていた京都所司代では抑えきれず、幕府は京都守護職の設置を決めました。候補にいくつかの藩の名前があがり、最終的に会津藩に白羽の矢が立ちます。藩主・松平容保は、適任でないと何度も辞退を申し出ますが、藩祖・



京都守護職時代に会津藩が本陣を構えた光明寺(京都市左京区)

組が会津藩預かりとなり、後に新選組の隊名が下されました。新選組を指揮していた孝明治安を守る容保を、深く信頼していた孝明

天皇は、極秘に「全く其の方の忠誠、深く感謝の余り、右一箱これを遣わす」という御宸翰(天皇直筆の手紙)と御製(天皇の和歌)を下賜しました。

### 孝明天皇の急死！

しかし慶応2(1866)年、孝明天皇が急死すると政情は一変。朝廷内では倒幕派の攻勢が強まりました。翌年、幕藩体制の限界を悟った第15代将軍・徳川慶喜は、朝廷に大政を奉還します。その後、明治天皇の名において「王政復古の大号令」が発せられ、慶喜の「官位はく奪」と「領地返上」が強引に決定されました。

慶応3(1867)年12月、江戸城二の丸放火事件などの薩摩藩による挑発行為に報復するため、旧幕府は江戸薩摩藩邸に放火。これにより薩摩藩に戦闘開始の口実ができ、一方の旧幕府も薩摩を討つ必要性に迫られました。



鳥羽伏見戦跡(京都市伏見区)

圧倒的兵数で挑んだ  
「鳥羽・伏見の戦い」：しかし

逃れられない新政府の包囲網  
会津が戦場に！

### 失

意の会津藩は、江戸を引き上げ会津に帰りました。容保は恭順の意を表して、何度も新政府に嘆願書を提出しましたが、これらはいずれも受け入れられませんでした。それどころか、新政府は会津藩を「賊軍」とみなして討伐令を発したのです。さらに5月、新政府軍は奥州に総攻撃を開始。白河をはじめとして、福島県内各地では激しい戦闘が繰り広げられることになりました。



赤井谷湿地から会津を望む



保科正之が残した「我家は宗家(徳川家)と盛衰存亡を共にせよ」という家訓をたてに迫られ、ついに守護職を受諾しました。

文久2(1862)年、容保は1000人

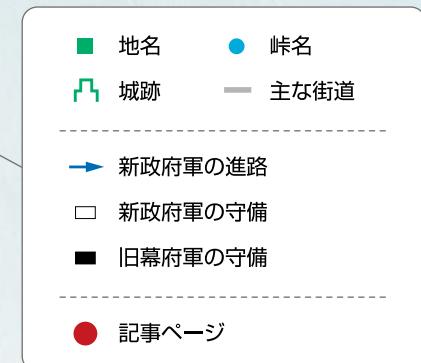


の藩士を引き連れて京都へ向かい、黒谷金戒光明寺に本陣を構えます。翌年には、近藤勇ら浪士

# 会津戊辰戦争での新政府軍進路図



# 戊辰戦争の足取り



## 地図でみる戊辰戦争

京都の鳥羽・伏見の戦いを発端に、全国を巻き込んだ「戊辰戦争」。その名は、戦闘が開始された慶応4（1868）年の干支が戊辰だったことに由来します。

大きくなりにしてしまって数えられる程度の戦いですが、激戦が繰り広げられた福島県では、代表的な戦いや落城した城だけでも、「これだけの名が挙げられます。これが福島県、主に会津を舞台に繰り広げられた戊辰戦争です。ひとつひとつには、心震えるエピソードがあります。

戊辰戦争前後で、人生が大きく変わった八重、籠城戦にも参加し、砲術の腕前を発揮しました。八重を知ろうとする上で避けては通れない「戊辰戦争」を、これからたどってみましょう。

八重を知ろうとする上で避けては通れない「戊

（）（）（）（）（）

籠城戦にも参加し、砲術の腕前を發揮しました。

辰戦争」を、これからたどつてみましょう。

卷之三

奧羽越列藩同盟

(古館所蔵)  
れ提出しますが、いざ  
けられてしまいます

拒絶などにより、元  
敵とされた会津藩

奥羽越  
藩（仙台藩、米沢藩、  
陸奥藩、二大八等、弘前等）

棚倉藩、相馬藩、三春藩、  
上ノ山藩、平藩、一ノ関藩、

(越州)の31藩  
るためにつく  
藩、亀田藩、八戸藩、天童藩  
藩、下手戸藩、矢島藩)は

「落同盟」を結成（さくじゆうめい）  
（長岡藩、新発田藩、村上藩、三眼山藩、黒川藩）を叫び、  
鳥羽・伏見と引きあづた

「朝敵」扱いをされた会津藩  
羽越列藩同盟が誕生し、  
うちに帰藩し、  
く命令に従う

ら退き隠居し  
願い出たもの  
会津藩、庄内藩と運命を  
ています。

同盟軍は、こうして新政府  
しい戦いへと突き進んでい、  
はじめとする奥  
又も嘆願書を、

八重の人生を変える成長戦争の「足跡」



## 棚倉藩の戊辰戦争

棚倉町



### 白河口の戦いに

#### 兵を割いていたために落城

関東と東北の境目として、親藩や譜代の大名が治めていた棚倉藩。戊辰戦争の際、会津にいた藩主・阿部正静に代わって、家老・阿部内膳が守っていました。内膳は白河口の戦いで6人組の隊長として活躍し、「仙台鳥に十六ささげなけりや官軍高枕」と新政府軍に恐れられました。

明治17(1884)年、白河口の戦いによる棚倉藩戦死者の靈を祭るために、旧棚倉藩の重臣である平田文左衛門が、白河市の南湖公園内に棚倉藩鎮英碑を建立しました。大正3(1914)年からは、旧土佐藩士と白河の有志による白河鎮英魂保存会が、秋の彼岸に慰靈祭を行っています。



### 新政府軍と二本松軍が激突

#### 二本松少年隊も出陣

慶応4(1868)年7月29日、板垣退助率いる新政府軍と二本松藩の丹羽右近率いる二本松軍が練り広げた攻防のひとつです。二本松藩士の多くが白河口に出兵し、兵力不足に陥っていたため、やむなく年齢に満たない少年たちが戦いに動員されました。戦場となつたのは、

そのころの霞ヶ城城下は、すでに城に残つた老兵たちが必死の抗戦を続けましたが、霞ヶ城はその日のうちに落城しました。

## 大壇口の戦い

二本松市



大壇口から眺める二本松。ここで壮絶な戦いが繰り広げられた

## 霞ヶ城（二本松城）と二本松少年隊

二本松市

### 誇り高き城とともに 未来ある少年たちの命さえも



## 二本松少年隊



戊辰戦争で、あまりの兵力不足のため60余名の少年たちが戦地に出陣しました。非常事態とはいえ、最年少は12歳という若さです。

この少年たちは後に「二本松少年隊」とよばれ、戦局が厳しい中でも故郷を守るため勇猛果敢に戦いました。少年隊士たちはこれに命じます。少年隊士たちはこれを拒みますが、最終的には少年隊副隊長の二階堂衛守が介錯しました。

二本松は誇りである霞ヶ城も、未來を握る少年たちも、わずか数日で失つてしまつたのでした。

霞ヶ城は、嘉吉年間(1441)に奥州探題となつた畠山満泰が築城しました。畠山氏は二本松氏を名乗り140年に渡つて周辺を支配しますが、天正14(158)

霞ヶ城とは

二本松藩は、戊辰戦争で奥羽越列藩同盟に参加して新政府軍と戦います。しかし、藩兵の大半が白河口に出向いている隙をつかれ、新政府軍が霞ヶ城城下に殺到。丹羽氏は霞ヶ城に入ると城郭の拡張や城下町の建設に尽力しました。

二本松藩は、戊辰戦争で奥羽越列藩同盟に参加して新政府軍と戦います。しかし、藩兵の大半が白河口に出向いている隙をつかれ、新政府軍が霞ヶ城城下に殺到。丹羽氏は霞ヶ城に入ると城郭の拡張や城下町の建設に尽力しました。

この少年たちは後に「二本松少年隊」とよばれ、戦局が厳しい中でも故郷を守るため勇猛果敢に戦いました。少年隊士たちはこれを拒みますが、最終的には少年隊副隊長の二階堂衛守が介錯しました。

二本松は誇りである霞ヶ城も、未來を握る少年たちも、わずか数日で失つてしまつたのでした。

霞ヶ城は、嘉吉年間(1441)に奥州探題となつた畠山満泰が築城しました。畠山氏は二本松氏を名乗り140年に渡つて周辺を支配しますが、天正14(158)

霞ヶ城の南に位置する大壇口。小高い丘で、奥州街道を北上してくる新政府軍を食い止める、最後の砦でした。

砲術師範の木村銃太郎率いる少年隊士たちが奮戦するも、多くは戦死しました。退却直前に重傷を負い、死を覚悟した木村が、自分の首を落とすよう命令したといわれております。戦いの壮絶さが伝わってきます。

少年たちの魂は藩主とともに大勝寺に眠っている

霞ヶ城は、嘉吉年間(1441)に奥州探題となつた畠山満泰が築城しました。畠山氏は二本松氏を名乗り140年に渡つて周辺を支配しますが、天正14(158)

霞ヶ城の南に位置する大壇口。小高い丘で、奥州街道を北上してくる新政府軍を食い止める、最後の砦でした。

太夫が率いた、ゲリラ戦を得意とした衝撃隊のこと。「十六さざげ」とは豆の一種で、16人組のことをさします。内膳は槍や弓で奮戦しますが、金勝寺で敵の弾丸に倒れました。

慶応4(1868)年6月、新政府軍は白河に統いて棚倉を総攻撃。棚倉藩は白河口の戦いに多くの兵を出して、棚倉城にはほとんど守備兵がいませんでした。藩兵の一部は、棚倉北部の逆川で板垣退助率いる新政府軍800名を迎え撃ちます。激しい攻撃に耐えられず、6月24日、棚倉城は落城・焼失しました。

## 棚倉藩の戊辰戦争

棚倉町

霞ヶ城は、嘉吉年間(1441)に奥州探題となつた畠山満泰が築城しました。畠山氏は二本松氏を名乗り140年に渡つて周辺を支配しますが、天正14(158)

霞ヶ城の南に位置する大壇口。小高い丘で、奥州街道を北上してくる新政府軍を食い止める、最後の砦でした。

太夫が率いた、ゲリラ戦を得意とした衝撃隊のこと。「十六さざげ」とは豆の一種で、16人組のことをさします。内膳は槍や弓で奮戦しますが、金勝寺で敵の弾丸に倒れました。

慶応4(1868)年6月、新政府軍は

## 無血開城を果たした三春藩

紫雲寺にはそれぞれ「官軍兵士の墓」が残されています。

三春藩士4人の悲劇

多くの人の働きで 民の血を流すことなく開城した舞鶴城

## 舞鶴城無血開城の立役者

世の情勢を把握し  
帰順へ



秋田映季肖像

奥羽越列藩同盟に参加

三春藩は磐城国田村郡（旧陸奥国南部、現在の福島県田村郡三春町）に存在した藩のひとつです。戊辰戦争当初、周辺諸藩との関係により奥羽越列藩同盟に加盟していた三春藩。時の三春藩主・秋田映季は、父の死去により家督を相続しましたが、幼少のため叔父の季春が後見し、藩政を取り仕切っていました。

# 会津・中通り 母成峠の戦い

## 両軍が激しく激突した母成峠

猪苗代町と郡山市を結ぶ母成峠とい  
う、リーンラインの最高部を母成峠とい  
います。現在は古戦場碑や慰霊碑  
があり、さらに安達太良連峰の心  
和む景観が広がっています。

会津

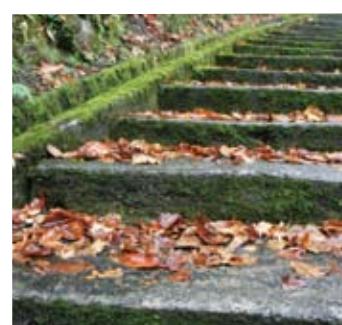
A painting depicting a hillside covered in autumn foliage. The trees on the left have vibrant red leaves, while those on the right are a mix of orange and yellow. The ground is covered in fallen leaves and patches of green grass. A small, dark bird is visible in the lower right foreground. The overall atmosphere is peaceful and seasonal.

長い歴史を見続けてきた  
時代の証人

磐梯山の南、猪苗代町の中心部にある小高い丘に築かれた城。この亀ヶ城は、源頼朝の東北遠征で功績があつた佐原義連(よしつら)の孫の経連が鎌倉時代初期に築いたといわれています。長らく猪苗代氏が居城としてきたことから、猪苗代城とよばれていました。

猪苗代町

会津藩の重要な拠点とされました。その名を「鶴ヶ城」といって、会津の墓地である土津神社の境内であります。そして、会津の人々は頼りました。しかし、この戦争で新政府軍が攻めました。時の城代と会津藩主の城を焼き払つて会津若松城を得ませんでした。建たれました。



亀ヶ城跡に残る遺構。藩士が必死で守った城跡を踏みしめる

のひとりに、土佐断金隊隊長・美正貫一郎がいます。貫一郎は新政府軍と三春藩の仲を献身的に取り持ち、河野広中とも交流していました。また、三春藩への攻撃を寸前まで止めよう、新政府軍に働きかけます。しかし舞鶴城開城後、霞ヶ城攻略のために本宮に向かう阿武隈川を渡る際に、狙撃されて戦死しました。三春町歴史民俗資料館裏には「美正貫一郎頌徳碑」、本宮・誓伝寺薬師堂には「美正貫一郎建臣之墓」「美正貫一郎建臣之碑」が建立されています。



美正貫一郎肖像画

新政府軍に帰順する一方、旧幕府軍として列藩同盟に出向いていた4人の三春藩士がいます。彼らは三春藩の同盟離反が露見すると、捕らえられ処刑されてしましました。無血開城の影で、その立場の移り変わりの犠牲となり命を落とした三春藩士もいたのです。舞鶴城本丸跡には彼らの死を悼み、「明治戊辰役三春藩士烈士碑」が建てられました。



戊辰戦争時には野戰病院として開放された龍溪院 境内には「官軍兵士の墓」が残されている

## 旧滝沢本陣

会津若松市



もてへの参勤交代や領内巡視、藩祖・保科正之を祭る土津神社への参拝時などに旅支度をするための休憩所として利用されていました。茅葺の屋根に覆われた建物は約330年前に建てられ、東北地方の民家としては最古のものとされていて国の重要文化財に指定されています。そのほか、藩主が愛用した日常品や参勤交代の道具、古文書なども公開されています。

**戊辰戦争時の会津藩大本営**

鶴ヶ城から北東に約3km、鶴ヶ城城下から白河を通り江戸へと続く旧白河街道沿い、滝沢峠の入り口に旧滝沢本陣はあります。本陣は、延宝年間（1673～1681）に滝沢組11カ村の郷頭を務めていた旧家・横山家に設けられ、江戸お

原・猪苗代の十六橋は戦略上重要な場所だったので藩主・松平容保は前線激励のため、ここに陣を構えました。白虎隊の士中二番隊に戸ノ口原へ出陣を命じた場所として有名です。

**会津藩の旧式銃 VS 新政府軍の新式銃**

母成峠での敗戦、十六橋が敵の手に落ちるなど会津藩の苦戦が続いた後、新政府軍は滝沢峠を越え城下に侵入。戦場となつた滝沢本陣には今も砲弾や刀傷が10数ヶ所も残されていて、当時の戦いの激しさを感じることができます。



は、すぐに十六橋へ前進しました。川村は鶴ヶ城の城下に入るには十六橋を渡らなければならず、破壊されれば水量の多いこの川は容易に渡れないことを知っていたのです。川村の部隊が到着した時、会津藩の奇勝隊が橋の破壊にとりかかつていましたが、強固な十六橋を落とさせていませんでした。

**白虎隊もここから出陣した**

白虎隊もここから出陣した

戊辰戦争の際、滝沢峠から戸ノ口原、猪苗代の十六橋は戦略上重要な場所だったので藩主・松平容保は前線激励のため、ここに陣を構えました。白虎隊の士中二番隊に戸ノ口原へ出陣を命じた場所として有名です。

**力の差は歴然**

母成峠での敗戦、十六橋が敵の手に落ちるなど会津藩の苦戦が続いた後、新政府軍は滝沢峠を越え城下に侵入。戦場となつた滝沢本陣には今も砲弾や刀傷が10数ヶ所も残されていて、当時の戦いの激しさを感じることができます。



現在は猪苗代湖の水位を調整する「十六橋水門」として利用されている

## じゅうろくばしの戦い

猪苗代町



周辺には電柱などもなく、当時とほぼ変わらない風景が広がっている

舞台は「白虎隊奮戦の地」戸ノ口原へ

藩境の母成口が破られたという

知らせを受け、予備軍だった白虎隊も集合を命じられていました。藩主・松平容保のかたもり

行く途中、戸ノ口原方面から応援を求められ白虎隊は戸ノ口原に向かうことになります。

その頃、十六橋の破壊が間に合はず、新政府軍は戸ノ口原になだれ

## 戸ノ口原の戦い

会津若松市

込んできました。白虎隊も加えた旧幕府軍は進入してきた新政府軍と激戦を繰り広げましたが、新政府軍が戦力を増強していく中、多くの兵を失つた旧幕府軍は次々と退却します。白虎隊も、身も心も疲れ果てた状態で散り散りになりながら、ただひとつ希望である鶴ヶ城を目指します。

このとき本体とはぐれた白虎士中二番隊の20名が、戸ノ口堰洞穴を抜けて飯盛山にたどりつきましたが、煙に包まれた鶴ヶ城を見て、落城したと錯覚します。そして集団自刃に…戸ノ口原の戦いは彼らの最後の戦いとなつたのです。

**会津戊辰戦争の終盤**

八重の父はここで散る



一ノ堰は、会津での戊辰戦争終盤の激戦地で八重の父・山本権八もこゝで戦死しました。

会津藩の一ノ瀬要人らに率いられた部隊は、城南方面に転戦してきました。会津藩の有力部隊が鶴ヶ城の南に集結しているとは知らない新政府軍の諸隊は、城南の各村々を

## 一ノ堰の戦い

会津若松市

占領して鶴ヶ城内への兵糧補給路を絶とうとします。両軍は鶴ヶ城の南数キロの所で遭遇し、戦闘が開始されました。

優勢・劣勢と立場が入れ替わり続け、両軍ほぼ互角のうちに日没。この日の戦いで会津軍は、主将の一ノ瀬要人をはじめとする隊長クラスの人物を多数失いました。有力幹部も負傷し、統率力や戦力に大きく影響しました。

新政府軍は一ノ堰に陣取つていた会津軍をこのまま見過ごすことはせず、西側と北側から攻撃します。だが、両道から合流した新政府軍が戦闘隊形を取らないうちに反撃。会津軍は平地と山上から射撃し、新政府軍の前進を阻みます。逆襲には成功したものの、戦力に余裕がない会津軍はその日の夕刻のうちに大川を渡り、本郷方面に引き上げました。そして城下周辺の会津軍は掃され兵糧補給路は遮断、鶴ヶ城は完全に包囲されたのです。